

第3回 準天頂衛星システム利活用促進タスクフォース 議事要旨

日 時：平成30年10月25日（木） 10：30～11：20

場 所：中央合同庁舎第8号館8階 特別大会議室

出席者：参考資料1 出席者一覧の通り

議 事：

- (1) 準天頂衛星システムの準備状況について
- (2) 準天頂衛星システムの利活用の取組について
- (3) その他

議事概要：

○冒頭、平井宇宙政策担当大臣より、準天頂衛星システムが提供するセンチメートルレベルという世界に類を見ない高精度の測位システムは、使われてこそ価値を発揮するものであり、その利活用促進のためにこのタスクフォースのメンバー、構成員が一丸となった取組の推進が必要であるとの発言に加え、雪などで白線が認識できない環境における自動車の運転支援や、農作業の省力化など、既に関係府省連携・官民連携のもと様々な検討や実証実験が進んでいることの紹介及び一層の幅広い利活用の促進に向けて頑張っていきたいとの挨拶があった。

○交代のあった政務構成員からご挨拶があった。内容は下記の通り。

・左藤内閣府副大臣（宇宙政策担当、科学技術・イノベーション担当）から、内閣府ではSIPの一環として、準天頂衛星システムを活用した自動運転システムの実証実験、災害時の通信途絶の解消、並びにスマート農業の実現に向けて取り組んでいることの紹介があり、引き続き、SIPの取組を通じて準天頂衛星システムの利活用にまい進して参りたいとの発言があった。

・永岡文部科学副大臣から、高精度測位サービスの本格開始という歴史的な瞬間を目前にしてご尽力を頂いた多くの皆様方に改めて感謝をするとともにその利活用による国民生活の一層の利便性、向上や安心・安全な社会の実現への期待を新たにしているとの発言に加え、今後の準天頂衛星システムの利活用の促進に向けて、準天頂衛星5から7号機の着実な打上げにむけたH3ロケットの開発や、利活用を支える技術的基盤の整備、人材育成を推進しているとの紹介があった。

・小里農林水産副大臣から、農林水産省では農機の自動走行システムに関する研究開発を

推進しており、本年、圃場内での農機の自動走行システムの市販化を達成し、更に2020年までに遠隔監視による無人システムの実現に向けて取り組んでいることに加え、誰もがこうした自動走行システムを導入できるように、低価格な準天頂衛星システム対応受信機の開発を進めていることの紹介があり、今後とも農業の現場で実際に活用して頂けるような研究成果の創出をし、スマート農業の推進が図られるよう頑張りたいとの発言があった。

・舞立内閣府大臣政務官（防災担当）から、防災の関係において準天頂衛星システムによる避難者の安否確認サービスの活用について検討しており、具体的には本年6月29日に実施した中央区帰宅困難者対策訓練において安否確認サービスを活用した訓練を行ったことの紹介があり、通信途絶地域における情報伝達ツールとして準天頂衛星の利用可能性が期待されているところ、内閣府防災担当としても引き続き準天頂衛星システムの防災機能の利活用促進に向けて協力して参りたいとの発言があった。

・國重総務大臣政務官から、準天頂衛星システムについては、今後、その高精度な測位情報を活用したサービスを如何に展開していくかが重要になってくるところ、総務省では平成26年度からオーストラリアにおいて準天頂衛星システムを活用したスマート農業の実証事業を進めてきており、引き続き、準天頂衛星システムによるサービスが国内外で幅広くビジネスの基盤として活用されるよう本タスクフォースの議論等踏まえて関連の取組を進めて参りたいとの発言があった。

・石川経済産業大臣政務官から、準天頂衛星システムがもたらす高精度の測位情報は、宇宙データの質、量の向上とアプリケーションの拡大において極めて重要な役割を担うものだとの認識に立ち、準天頂衛星システムの産業利用を一層促進するため物流、プラント、農機、建機、警備業など各業界団体との対話を通じた需要の掘り起こしに努めていることの紹介があり、福島において、ドローン物流の実現に向けた実証、オーストラリアにおいて、将来的な自動運転への準天頂衛星の活用可能性に関する実証を実施していく旨に加え、引き続き関係省庁と連携しながら準天頂衛星システムを活用したサービスの創出に取り組んで参りたいとの発言があった。

○準天頂衛星システムの準備状況について

高田内閣府宇宙開発戦略推進事務局長から、資料1「準天頂衛星システムの準備状況について」について説明。

○利活用事例と取組の紹介

東日本高速道路株式会社 中西執行役員から資料2-1について、ジェネクト株式会社

笠原代表取締役から、資料2-2について説明があったのち、実用化に向けた開発状況、ビジネスモデルや他分野への適用可能性等について質疑応答があった。

○最後に、平井宇宙政策担当大臣より、国としては大きな投資をしてきたので、使って頂いてこそだと思っており、我々いつでも相談に乗るので、事業化するにあたって色々な困難があったり障害があったりしたらそれを取り除く努力も一緒にさせて頂くので、今後とも利活用促進のためにどうぞ皆さん力を貸して欲しいとの挨拶があった。

(以上)